

## 学校自己評価表

福翔高等学校	平成20年度末報告 平成21年度計画段階	P 1 P 2
博多工業高等学校	平成20年度末報告 平成21年度計画段階	P 3 P 4
福岡女子高等学校	平成20年度末報告 平成21年度計画段階	P 5 P 6
福岡西陵高等学校	平成20年度末報告 平成21年度計画段階	P 7 P 8

学校経営計画 (計画段階・中間報告・〇年度末報告)						9月 評価	3月 評価	
学校経営方針		伝統校としての校風と実績を踏まえ、市民からの期待と信頼をより高めるため、「福翔改革セカンドステージ」の成果をあげるよう全力を傾注し、「古業復活」を目指す。						
昨年度の成果と課題		平成20年度重点目標		具体的目標				
1 生徒の実態に即した進路指導、特に国公立大学進学について3年間を見通した学校体制づくりが必要である。 2 生徒の進路実現に向けたコース選択ガイダンスの充実を図る必要がある。 3 生徒による授業評価の導入等により、授業方法の工夫・改善が図られつつあるが、さらに教職員の意識改革と工夫・改善の努力が必要である。 4 開かれた学校づくりの更なる推進と説明責任の徹底を図る必要がある。		「福翔改革セカンドステージ」完成年度の本年、生徒の進路実現を最重点に、進学・就職それぞれの目標達成に努力する。		進路指導の充実、生徒指導の充実(生徒会、部活動の活性化含む)、環境美化の推進			58%	77%
		教職員の意識改革を進め、教育内容の精選と授業方法の工夫・改善を行い、学力が身に付くよう授業の質を高める。		授業の工夫と改善、人権教育の推進、校内研修の充実、サテライト講座、ジュニア・アチーブメントの積極的活用				
		開かれた学校づくりを推進するとともに、教育の内容・方法や教育の成果と課題について、市民・保護者への説明責任を果たす。		開かれた学校づくり(学校運営協力者会議、父母教師会・同窓会会議等)広報活動の推進(オープンスクール、ホームページの充実、中学校訪問等)				
評価項目	具体的目標	現状値	目標値	具体的方策	9月	3月	評価	平成21年度への課題及び改善点
コース制を定着させ、生徒の進路実現を図る	進路指導の充実	33%	100%	九州大学を含む国公立大学現役30人以上、西暦大学80人以上、福岡大学150人以上をめざす。	60%	65%	65%	センター試験対策の充実を図る。
		70%	100%	高位資格取得を活用した就職率100%をめざす。	70%	90%	90%	公務員対策の充実を図る。就職率100%の達成。
		50%	80%	3年次の進路ガイダンス(志望校決定、学習支援)の充実をめざす。	60%	80%	80%	進路ガイダンス、学習支援の充実を図る。
		33%	100%	コース制による指導の特性を活かし、校長の示す数値目標をクリアする。(3年次部)	33%	50%	50%	国公立に課題を残した。
		50%	90%	基礎学力の定着をはかる。(2年次部)	60%	70%	70%	100%の努力はした。次年度は入試直結の指導をする。
	生徒指導の充実	0%	80%	個々の生き方(ライフプラン)を踏まえた明確な進路目標を自ら決定させ、自己実現の力を養う。(1年次部)	20%	85%	85%	特になし。
		30%	90%	携帯電話に関する諸問題について、全職員の意思統一のもと指導を行う。	50%	70%	70%	指導をさらに徹底し、全職員統一した指導を行う。
		90%	100%	基本的な生活習慣の確立(遅刻・欠席者は居残り勉強会を行う)(3年次部)	90%	90%	90%	規律ある校風の確立は学習活動の基本である。
		70%	90%	基本的な生活習慣のさらなる定着をはかる。(2年次部)	80%	80%	80%	ほぼ達成できている。次年度も継続する。
		60%	90%	部活動、並びに体育祭、文化発表会、予備会などの学校行事を通して、生徒会を中心とした自主的活動を支援する。(実行委員会を増やし、生徒と教員の連携を密にする)	70%	80%	80%	生徒と教員の連携を強める中で、いかに生徒の自主性を高めるか、また文化祭の活性化が課題である。
	高位資格取得の推進	30%	90%	学年全体で選別指導に取り組み、選別者数の減少をはかる。また、5分前行動や提出物の期限を守るなど、時間を守ることの大切さを重点的に指導する。(1年次部)	50%	90%	90%	教員間での指導の温度差をなくす。
		50%	80%	あいさつ、言葉遣い、態度・姿勢についてきちんと指導し、教師とのけじめある人間関係を構築するとともに、礼儀や態度を重んじる態度を養う。(1年次部)	60%	90%	90%	教員間での指導の温度差をなくす。
		0%	80%	商業科目について、補習との関係を考慮した教育課程の整理・見直しを行う。	40%	50%	50%	課題が明確になったのでこれから改善に取り組む。
		28%	40%	英語検定試験の受験者数を増やし、同時に合格率を上げる。	41%	30%	35%	受験者数、合格率アップに力を入れる。
		20%	90%	簿記検定や初級シスアドなどの資格取得が可能な指導体制をつくり合格をめざす。	50%	80%	80%	朝補習及び長期休業中の補習の指導方法を検討する。
学習環境の整備	60%	75%	生徒が主体的に学習環境の整備に努め、学習しやすい環境づくりをめざすよう学校全体で取り組む。また、生徒会を中心にゴミ減量や呼びかけ活動を推進する。	70%	75%	75%	学校全体で印刷されるプリントの減量が今後の課題である。	
	90%	100%	教室の整理整頓により学習環境を整える。(3年次部)	90%	90%	90%	教室・校内美化は学習活動の基本である。	
	80%	90%	清掃活動に全員の生徒で意欲的に取り組むことで、生徒の美化意識の向上をはかり、奉仕の精神を養う。(1年次部)	60%	90%	90%	特になし。	
授業の工夫・改善を行い、生徒を鍛える授業づくりを進める	授業の工夫と改善	0%	100%	年2回授業公開週間を設け、授業の工夫・改善に向けた技術の向上をめざす。	10%	50%	50%	来年度は2回実施を決定。有効な活用方法を検討する。
		0%	100%	授業の振り替えの定着をはかり、年間の総自習時間数の50%減をめざす。	50%	80%	80%	自習3割減。今後は減替を基本とする。
	校内研修の充実	50%	60%	効率的・効果的な校内研修を実施する。	55%	60%	60%	参加状況に大きな改善は見られなかった。
		40%	70%	各教科・科目内での、授業、補習、サテライト講座の総合化を図る。	50%	60%	60%	講座新設等への対応を図る。
	サテライト講座の活用	60%	100%	サテライト講座を利用して、自学自習の態度を養い、生徒の進路実現を目指す。	70%	70%	70%	生徒の学習への意欲を全体的に高める。
	ジュニア・アチーブメントによる進路意識の向上	0%	60%	SCP(ステップ・アップ・プログラム)の実施に向け、具体的計画・研修を充実させる。	20%	90%	90%	SCPについての説明会と同好会の結成が必要。
		10%	100%	1年次総学(日本語コミュニケーション)での全がMESE実施の計画を1～2月に具現化し、グループワークによる意思決定能力の育成をはかる。	10%	100%	100%	MESEの実施時期について検討する必要がある。
開かれた学校づくりを推進する	開かれた学校づくり	80%	100%	オープンスクール、保護者の授業参観を各1回実施する。	80%	90%	90%	内容の充実が必要である。
		80%	100%	各学期に1回、学校運営協力者会議(学校がナ会議)を実施し、外部の意見を聞く。	85%	90%	90%	提供する資料の精選と活発な意見交換のための工夫。
		80%	100%	P.T.A.実行理事会を月1回実施し、保護者との連携をはかる。	85%	90%	90%	さらに連携を深め、P.T.A.活動を充実させる。
	中学生などに向けた積極的な広報活動	70%	100%	中学校訪問、体験入学、広報誌発行などを実施し、学校のPRを行う。	80%	80%	80%	次年度は「福翔だより」を工夫し発行する。
		80%	100%	ウェブサイトの充実と週1回の更新を行い、年間を通して常に新しい情報の提供をめざす。	90%	80%	80%	さらに内容の充実をめざす。

いずれかを○で囲む

学校名		福岡市立福岡高等学校		学校経営方針・学校教育方針		今年度の重点目標		評価(総合)			
学校長	ふりがな	うと けんじ		志をもち自らの目標を達成しようとする進路生と、意欲的・協力的に学校運営を担う教職員の協働により、「熱・意欲・力」の校風を具現化する進路支援をつくる。 そのために、創立110周年を迎えた伝統校の輝き、およびその校風と実績を踏まえた恒常的な学校運営に資する、市民からの期待と信頼をより高めるため、「平成の福地改革をカドステージ」を継続し、その成果をおげようの力を発揮し、「吉野校風」を再確立する。 さらに、本校創立110周年を来年度にひかえ、中・長期の展望のもと、総合学科コース制を深化させ、学科組織の改編をも視野に入れ検討し、刷新をだすよう努力する。		(1) 授業を中心に質的・量的な学校運営をおこなうとともに、生徒の進路実現を重要視し、昨年度は目標達成に到達できなかったが、進学では、九州大学を含む公立大学進学30人以上、地元の前橋大学80人以上、福岡大学150人以上を目標に、教職では、高学位取得者を活用した教職率100%を目標に再挑戦をし、努力を継続する。 (2) 教職員の研修改革を進め、教育内容の精選と授業方法の工夫・改善や、サテライト講座、ジュニア・アダプメントの積極的な活用を通して、学力が身に付くよう授業の質を高める。 (3) 基本的な生活習慣の確立と規範意識を高め、進路生にふさわしい生徒の育成を図るとともに、開かれた学校づくりの一環として、三者懇談会、オープンスクール、中学校・学習塾等への訪問などに力を入れ、本校広報活動に努める。		学校自己評価		学校関係者評価	
	氏名	宇土 健治									
校長本校在任年数		2年									
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	おうりょうじ としろう									
	氏名	押領司 敏郎									

昨年度の成果と課題	<p>①総合学科改編以来の課題であった変身科目選択をしないように、「ハイキング方式」の科目選択を改め、学校選択による「定率方式」の履修のコース制とし、進路保障を第一とする指導が可能となった。またその取り組みとリンクした形での補習授業の充実、強化、サテライト講座の定着等、学力をつけさせる授業の構築を推進できた。</p> <p>②キャリア教育の一環として、ジュニア・アダプメントを導入し、MESE(監督 意思決定シミュレーション)、ジョブシャドウを2年間継続して実施、生徒の職業意識の醸成につながっている。</p> <p>③学校という集団的組織づくりとしての規律の確立を重視し、礼儀正しい、高校生らしいさわやかな校風をつくるようにしてきた。学年集団及び体育科の全国大会のもと、ここ3年間で服装、髪型等のみだれも大幅に減少し、生活行動も高校生らしいと地域住民が評価するまでに改善した。</p> <p>④人的な課題として、大学入試の受験指導に資する指導力を十分に備えた教師の育成が急がれる。</p>
-----------	--

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程 学習指導	国公立を中心とした進学および高資格取得による就職を実現させるために、より適した教育課程への改善を進める。	福岡セカンドステージ3年間の検証を行う。  コースの内容や週当たりの総時間数も含めた大幅な見直しを1学期中に進める。					
	生徒の進路希望を実現させるためのわかる授業づくりに向けて、授業方法の工夫・改善に向けた取り組みを行う。	年2回の教員相互の授業見学期間を設定する。  授業アンケートによる検証も参考にし、授業方法の工夫・改善を進める。					
生徒指導	規範意識を向上させる。	服装・髪型指導の徹底を図る。  自転車の交通安全とマナーの向上を図る。					
	基本的な生活習慣の確立を図る。	時間厳守を徹底する。  挨拶を励行する。					
進路指導	大学入試の合格率を上げる。	生徒一人ひとりの進路保障を目指し、適切な指導、助言を行う。  基礎学力の定着を図る。					
	進路ガイダンスの充実を図る。	3年間を見通した進路シラバスを作成し、学年に応じた情報の提供、支援を行う。  高資格取得を目指す。					
学校改革	総合学科へ変えて10年目の年である。これを機に18年度より改革中の総合学科コース制の是非も含めて検討して120周年、150周年を更なる発展とともに迎えられるような改革を断行する。	他校訪問等を行う。  学科、教育課程、教務内規、入試制度、部活動、規律、風紀など検討を加える。					
開かれた学校づくり	開かれた学校づくりを推進する。	オープンスクール、保護者の授業参観を各1回実施する。  各学期1回、学校運営協力者会議を実施し、学校関係者評価として意見を聞く。					
	中学生などに向けた積極的な広報活動に努める。	中学校・学習塾等への訪問、体験入学などに力を入れる。  ウェブサイトの充実と週1回の更新を行い、年間を通して常に新しい情報の提供を目指す。					

※ 学校自己評価は、5段階評価(S…目標を大幅に上回る達成度,A…目標を上回る達成度,B…目標どおりの達成度,C…目標を下回る達成度,D…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。  
 ※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(S~D)で評価すること。

学校経営計画(計画段階・中間段階・ <u>年度末報告</u> )段階を○で囲むこと								評価 (9月)	評価 (3月)
学校経営方針	◎「ものづくり」日本一の工業高校を目指す。 ◎「安全第一」の工業高校を目指す。							B	B
昨年度の成果と課題	平成20年度重点目標			具体的目標					
・「安全第一」を念頭に置いた教育活動は定着してきた。 ・工業高校の生徒として、節度ある行動ができるよう更なる指導を展開したい。	1 工業専門性の深化 2 授業の確立 3 節度ある行動の育成 4 開かれた学校づくり 5 教師の教育力の充実	1 「類・コース」制の見直し。多様な検定試験の受験と資格取得の奨励。 2 基礎基本の定着。成績不振による中途退学者の減少。 3 時間厳守指導。集団行動における規律の強化。 4 ボランティア活動等を中心に地域での活動に参加。学校情報発信の拡大。 5 工業科教師の技術・技能力の向上を図る。							
評価項目	具体的目標	現状値	目標値	具体的方策	自己評価			平成21年度への課題及び改善点	
					9月	3月	3月		
1 工業専門性の深化	「類・コース」制の見直し	C	B	教育課程の研究を更に進める。専門分野への移行が円滑になされるよう、教育課程を見直す。	C	B	B	研究指定のテーマに沿った教育課程の確立を目指して、研究を推進していく必要がある。	
	多様な検定試験の受験と資格取得の奨励	C	A	ジュニアリーダー制度の意義を認識させ、資格取得への意欲を喚起し、出来るだけ多くの資格を取得させる。	B	C	B	現在取得している資格より、より高度な資格を取得できるように、授業における教材の研究や指導内容の精選に心がけなければならない。	
2 授業の確立	基礎基本の定着	C	B	シラバスの活用を基に、教材の精選や指導法を研究し、「生徒によくわかる授業」の展開に取り組んでいく。	C	B	B	生徒による授業評価を参考に、指導法に工夫を凝らす必要がある。また、有効性に関しては授業を公開、様々な意見を聞いて改善を促進する必要がある。	
	成績不振による中途退学者の減少	C	A	追試に至るまでの指導法を見直す。宿題や提出物などは細かくチェックし、適切な学習指導を行う。	B	B	B	多くの生徒は、自主的に勉強するタイプではないので課題を課し、今まで以上に細やかなチェック及び指導の必要がある。	
3 節度ある行動の育成	時間厳守指導。特に遅刻防止対策の強化	C	B	遅刻防止の徹底。年間の遅刻人数を減らす努力をする。開始ベルと同時に授業を始める。	B	B	B	朝補習の効果が徐々に出てきているように思える。来年度もこの体制を継続していかねばならない。	
	集団行動における規律の徹底	C	A	月に1度は全校集会を開催。規律の徹底を図る。また、人の話を傾聴するという姿勢を育成する。	B	A	A	以前より人の話に耳を傾けるようになったが、まだ改善しなければならぬ。全体行動の訓練を強化する機会を増やす必要がある。	
4 開かれた学校づくり	ボランティア活動等を中心に地域での活動に参加	B	A	生徒会・部活動の生徒を中心に地域でのボランティア活動等へ自主的に参加するよう指導する。	A	A	A	建築科による清掃道具小屋の建築・音楽部の地域イベント参加・生徒会の公園清掃・野球部の定期的な地域清掃と今後も活動を継続してもらいたい。	
	広報活動の充実や情報発信の拡大	C	A	PTA活動と協力し、生徒の活動状況を出来るだけ多く発信していく。各中学校への担当者を決め、訪問する。	B	A	A	PTAの広報部との連絡を密にし、PTA新聞に学校現況報告を掲載するシステムの維持を願う。中学校訪問も現行の維持を切望する。	
5 教師の教育力の充実	工業科教師の技術・技能力の向上を図る	B	A	各種研修を奨励し、更なる技術・技能力の向上を図る。又、先進的な工業高校の視察を推進していく。学期に最低1回の研修会を開催する。	B	B	B	日常の忙しさにかまけて、ややもすると研修がおろそかになっている。管理職からの奨励が更に必要と思える。研修会に関しては定着してきた。	

平成 21 年度 学校評価報告書 1 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

学校名	福岡市立博多工業高等学校		学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価 (総合)	
学校長 ふりがな 氏名	よしづみ まさたか		(1) 教育目標達成のために、学習指導、進路指導、生徒指導等に各課・各教科・各学科が連携して適切かつ調和のとれた学校運営を推進する。 (2) 「ものづくり」をはじめ、工業高校の魅力ある諸教育活動を通してスペシャリストを育て、地域や社会に信頼され産業界に求められる人材を育成する。 (3) 本校種教育活動を通して、社会で通用する礼儀や規律、自己表現力、コミュニケーション能力を育成する。 (4) 教育指導計画に基づき授業や諸活動の展開と教育環境の整備を図り、生徒が安心かつ安全に学校生活を送ることのできる能力や態度、習慣を身に付けさせる。	(1) 学習への意欲・興味・関心の向上と学力の伸長、生徒の進路目標の早期決定と希望進路の実現 (2) ジュニアマイスター顕彰の称号授与に積極的にチャレンジする生徒の育成、「進学コース」等生徒の進路実現を図る指導の充実と大学進学実績の向上 (3) 基本的な生活習慣の確立と規範意識や情報モラルの育成、生徒の個性や能力の伸長、自主性や実践力の育成 (4) 学習環境の整備と文化的な感性や豊かな人間性の育成、不登校や中途退学の防止 (5) 本校教育への理解と協力を得る学校情報の発信と評価システムの確立、研究指定発表会と周年行事への積極的な取組	学校自己評価	学校関係者評価
校長本校在任年数	1年				学校関係者 評価委員会 委員長 ふりがな 氏名	まつなが よしかつ 松永 義勝
昨年度の成果と課題	成果 ○一般入試における受検者の確保 ○就職希望者の内定確保 ○進学希望者の8割の合格 ○資格・検定取得実績の向上 ○生徒指導部・特別活動部による積極的な生徒指導の推進 課題 ○推薦入試における定員割れの改善 ○就職と進学の進路実現を保障する授業力の向上 ○資格・検定取得実績の更なる向上 ○学習環境の整備 ○自己指導力を促す積極的な生徒指導と教育相談体制の確立 ○適切な学校評価の推進と情報公開による保護者地域の信頼と協力の確保					

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程 学習指導	分かる授業づくりの指導の工夫改善	校内研究授業の実施 指導案の検討					
	「ものづくり」技能・技術の向上	各科特色ある教育活動の適切な実施 社会人講師招致事業の実施					
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	登校時、校内における挨拶指導の徹底 定期的な風紀指導の徹底					
	生徒会活動や部活動の推進	生徒会役員による集会活動の指導推進 入部の奨励と活動状況の広報					
進路指導	ジュニアマイスター称号受賞推進	各種資格検定の紹介、奨励 取得状況の広報					
	就職や大学進学等確かな進路実現	求人の新規開拓、安定的な提供 早朝及び夏季休業中の補習の充実					
学習環境	学習環境の整備	安全点検の徹底 清掃要領の周知と清掃指導の徹底					
	不登校や中途退学を防止する支援体制の確立	教育相談委員会における情報交換の徹底 教育相談アンケートの実施と気になる生徒との面談活動の実施、SCとの連携					
開かれた学校づくり	適切な学校評価と情報発信体制の整備	自己評価資料としての生徒・保護者・地域アンケートの実施と分析 学校関係者評価に係る改善案の確実な検討					
	研究指定発表会や周年行事へ向けた取組の推進	授業づくりに係る研修会の実施と全職員による運営の周知、広報 周年行事実行委員会の発足と運営の取組の実施					

※ 学校自己評価は、5段階評価(S…目標を大幅に上回る達成度、A…目標を上回る達成度、B…目標どおりの達成度、C…目標を下回る達成度、D…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。  
 ※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(S～D)で評価すること。

学校経営計画(計画段階・中間報告(年度末報告))					評価(9月)	評価(3月)		
学校経営方針	教育基本法に則り、学校教育目標の実現を目指す。キーワード「響き合う、魅力ある女子高校を創造する」				C	B		
昨年度の成果と課題	平成20年度重点目標(特に重点をおく目標に絞る)	具体的目標						
市研究指定の発表会を終え、学校改革に向けた職員研修や全校集会を重ね、生徒指導を強化してきたことから、地域の評価も高くなりつつあるものの、5年連続定員割れの実態があり、今後も継続して組織としての指導体制を強化し、信頼回復に向けた取組が必要である。	1 学校教育指導の重点を踏まえた教育を実践する。 2 市民に信頼される市内唯一の女子高校としての存在意義を高める教育を推進する。 3 ポジティブな学校文化を築き、信頼される学校を目指す。	1 魅力ある高等学校教育の推進及び特別支援教育の推進に努める。 2 ① 生徒会活動を活性化し、生徒の自主的活動を推進する。 ② 図書館の有効活用及び読書活動を推進する。 ③ 生徒の学びの基礎(授業規律・素直な心など)を確立する。 ④ 正しい言葉遣い、元気のよい挨拶、真面目な掃除の励行に努める。 ⑤ 近郊の通学路の清掃ボランティアなどの地域への貢献活動を行う。 3 学校長がトップリーダーとして責任を負い、機能的な組織運営を行う。						
評価項目	具体的目標	現状値	目標値	具体的方策	評価			平成21年度への課題及び改善点
					9月	3月	3月	
1 学校教育指導の重点を踏まえた教育を実践する。	○ 魅力ある高等学校教育の推進及び特別支援教育の推進に努める。	D	B	・6学科の特色を学校全体に反映させ学校の特色とするため、専門学科の課題研究及び総合的な学習の時間については、全校集会で研究発表会を行うとともに、保護者や地域、小中学校等の教育関係者にも広く公開する。 ・小中高連携教育推進計画による合同研修会を開催し、異校種間連携を深めるとともに、地域に愛される児童生徒の育成を目指した学校教育活動の工夫改善を図る。 ・校内の特別支援教育コーディネーターを中心に教育相談委員会を活用した校内支援計画等に関する研修を行い、生徒の現状等の把握と指導方法を検討する。	C	B	B	・6学科の特色を学校全体に反映させる取組として、専門学科の課題研究及び総合的な学習の時間の発表会を全校集会で実施することができた。来年度も継続して実施し、全校生徒で本校の教育内容を共有化したい。 ・小中高連携教育推進計画による合同研修会を実施し、異校種間の連携教育を推進することができた。 ・特別支援教育については、教育相談委員会が兼ねており、来年度は、個別の具体的な支援計画等を構築していく必要がある。
2 市民に信頼される市内唯一の女子高校としての存在意義を高める教育を推進する。	① 生徒会活動を活性化し、生徒の自主的活動を推進する。	D	B	・生徒会の自主的活動を促進するため、学校行事やHR活動を充実させるとともに、ボランティア活動等を積極的に行う。また、他校との交流等により活動内容の工夫改善を図り学校を活性化する。	C	B	B	・体育祭や文化祭、クラスマッチ等の学校行事やボランティア活動など自主的活動を行っており、一定の成果を上げている。他校との交流では、女子校サミットを開催するなど、積極的な活動が見える形になってきた。
	② 図書館の有効活用及び読書活動の推進する。	D	B	・朝の10分間読書を導入し、落ち着いた雰囲気の中で授業を開始できるよう職員朝礼の簡素化等に努める。 ・朝の読書活動を定着させるとともに、図書館の活用状況を活性化し、自宅等における読書活動の習慣化を目指す。	C	B	B	・朝の10分間読書活動を導入したことにより、落ち着いた雰囲気の中で授業に入れた。また、図書館の貸出冊数も大幅に増加するなど読書活動を推進に寄与した。職員朝礼は時間内に実施できた。今後は、読書活動をさらに定着させ、その意義等を生徒に十分理解させる取組が必要である。
	③ 生徒の学びの基礎(授業規律・素直な心など)を確立する。	D	B	・生徒と正面から向き合う組織的な生徒指導を徹底し、生徒の規範意識を向上させる。 ・教育課程に基づいた適正な授業時数を確保するとともに、授業評価を生かした研修を深め授業改善に努める。	C	B	B	・ゼロトレランスの視点に立った生徒指導の成果は上がっており、今後も指導を継続するとともにその定着を図る。授業時数の確保は昨年より改善されているがさらに進めるとともに、授業の工夫改善も継続して行う必要がある。
	④ 正しい言葉遣い、元気のよい挨拶、真面目な掃除の励行に努める。	D	B	・全教育活動を通じて、教員間、生徒間、教員と生徒間における適切な言葉遣いや元気のよい挨拶が響き合う教育環境作りを共通実践により実現を目指す。 ・清掃時間には全職員で監督に当たり指導を徹底するとともに、日常的な整理整頓、ゴミの分別等が適切に行われるよう、定期的に点検するなど教育環境の美化に努める。	C	C	C	・適切な言葉遣いや元気のよい挨拶ができるような教育環境になってきているものの、今後も粘り強く教職員及び生徒相互で行っていく必要がある。 ・日常の清掃活動など教育環境の美化については、日常的な整理・整頓、ゴミの分別等が徹底できていない状況があるため、美化コンクール等により意識向上を図る。
	⑤ 近郊の通学路の清掃ボランティアなどの地域への貢献活動を行う。	D	B	・定期考査終了時に地域清掃等のボランティア活動を行う。 ・学校改革全校集会等を通じて、登下校時を中心に学校・地域等の方への挨拶の励行、自転車通学や公共交通機関におけるルール遵守とマナーの向上等の指導を徹底し、地域に愛される福女生の育成を目指す。	C	B	B	・学年別の地域清掃活動を計3回実施した。また、PTA花いっぱい運動や登下校時における挨拶、自転車マナー指導等を日常的に実施することにより、地域の方々から生徒の状況等の評価が年々向上してきている。今後も継続的な指導が必要である。
3 ポジティブな学校文化を築き、信頼される学校を目指す。	○ 学校長がトップリーダーとして責任を負い、機能的な組織運営を行う。	D	B	・校長のリーダーシップのもと、教頭以下主任主事がリーダー性を発揮し、各部・学年が行動連携できるよう、報告・連絡・相談(ほう・れん・そう)の体制を密にし、組織的な指導体制を確立できるよう「響き合う」教職員集団創りを目指す。	C	B	B	・校長のリーダーシップのもと組織的な「響き合う」指導体制の確立を目指しているところであるが、報告・連絡・相談・調整をさらに徹底するとともに、今後とも教職員が行動連携できるよう、研修等を行っていく必要がある。

※ A (80~100%) B (60~79%) C (40~59%) D (20~39%) E (0~19%)

学校名	福岡市立福岡女子高等学校		学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価(総合)	
学校長	ふりがな	ほんだ つねただ	つながり、響き、高まり合う 魅力ある女子高校を創造する」をキーワードに、学校教育目標「生涯にわたって主体的に生きる女性として人間力を培い、本校の教訓である「自立」「共生」「創造」をモットーに、自己教育を身につけた良き社会人の育成に努める。」の実現を目指す。	1. 市民に信頼され、生徒が誇れる市内唯一の公立女子高校としての存在意義を高める教育を確立する。 2. 魅力ある女子高校の実現に向けた具体的な取り組みを行う。 3. ポジティブな学校文化を築き、信頼される学校を目指す。 4. 予算の適正な執行と公正な業者の選定を行う。 5. 個人情報の適切な取り扱いを行う。	学校自己評価	学校関係者評価
氏名	本多 常忠					
校長本校在任年数	4年					
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	なかどめ たけあき				
氏名	中留 武昭					

昨年度の成果と課題 これまでのゼロトレランスによる生徒指導の強化により、生徒指導上の信頼は回復されつつあるが、6年連続の定員割れは、学科のみならず福岡女子高校そのものの存在意義を問う厳しい現状である。ゆえに、女子高校ならではの教育を追求し、生徒が誇りに思う教育を推進すつとともに、生徒の姿を通して女子教育のすばらしさを発信する。

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的な方策					
教育課程・学習指導	<p>新学習指導要領の趣旨を踏まえることは当然として、本校の厳しい現状を踏まえ各学科において特色ある教育活動ができるような教育課程の編成を行う。</p> <p>昨年に引き続きゼロトレランスによる授業規律の確立を目指すとともに、生徒が意欲を持って主体的に参加できる授業を実現するために様々な方法を取り入れ個人としての取組を組織としての取組に発展させる。</p>	<p>カリキュラム検討委員会を通じて各教科学科の意向を踏まえ、新教育課程を作成する。</p> <p>現行の教育課程においても改善できる点がないか、積極的に模索する。</p> <p>講師の先生方も含めて全職員で授業規律の確保に努める。</p> <p>昨年度まどめた中の素晴らしい取組を、個人レベルでなく各教科学科で検討実施する。</p>					
生徒指導	<p>生徒指導改革3年目として、将来にわたり、市民から信頼される安定した望ましい生徒の姿を確立する。</p> <p>自分を大切にするとともに、他人に迷惑をかけない、他人を大切にできる人権感覚等の豊かな心を持った生徒を育成する。</p>	<p>ゼロトレランスの視点に立った生徒指導を全職員の行動連携により、継続・発展させる。</p> <p>生徒会を中心とした生徒の自主的な活動を促進するとともに、生徒の自律性を育む。</p> <p>生活面で指導を要する生徒に多くの教員が関わり目の前の生徒の内面にせまる指導(内省指導)で学校生活を改善させやる気を引き出す。</p> <p>不登校傾向・不登校の生徒に関係各部・機関と早期に連携し、その防止に努める。</p>					
進路指導	<p>生徒の将来の自立に向けて、キャリア教育の視点に立って、生徒の進路意識を育成していく進路指導計画を推進する。</p> <p>さまざまな進路希望を持つ、本校の生徒のニーズに対応できる進路支援体制を確立する。</p>	<p>本年度より全学年に導入した、プログレスノートを効果的に活用する。</p> <p>社会入基礎力に関する研修や情報提供を実施し、理解を深める。</p> <p>生徒の状況を踏まえた進路ガイダンスや説明会を適宜、企画実施する。</p> <p>補習や検定対策指導などを見直し、進路実現につながるよりよいあり方を工夫する。</p>					
研修	<p>研修主任を中心に学校の課題解決に向けたテーマ研修の実施を組織的に取り組む。</p> <p>平成19年度福岡市教育委員会研究指定発表の研究テーマ「魅力ある女子高校の創造」の取り組みを継続発展させる。</p>	<p>学校力向上委員会で、生徒の生きる力の育成を目指し、生徒のやる気スイッチをオンにする教育活動の立案・実践を行う。</p> <p>校内のテーマ研修年間計画に基づき研究協議を行うとともに、研修内容の充実を図る。</p> <p>授業評価に基づき、授業改善を目指して検証授業・相互参観を実施する。</p> <p>一般研修として、職員研修、小中高連携合同研修、各部主催研修等を実施し、校内研修体制を確立する。</p> <p>第3次とりまとめの研修会を実施する。</p>					
人権教育	<p>実践的態度及び行動に連なる人権教育を推進する。</p> <p>望ましい道徳的実践ができるようにする。</p>	<p>学級をはじめ学校生活全体で生徒自身が人権感覚を突感できる状況を作る。</p> <p>学校の教育活動全体で望ましい道徳的価値を考えさせ、規範意識を高める。</p> <p>平成22年度実施に向けて、道徳教育の全体計画を作成する。</p>					

※ 学校自己評価は、5段階評価(S…目標を大幅に上回る達成度、A…目標を上回る達成度、B…目標どおりの達成度、C…目標を下回る達成度、D…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。  
 ※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(S~D)で評価すること。

学校経営計画 (計画段階・中間段階・年度末報告)		評価(9月)	評価(3月)			
学校経営方針	生徒の学校生活に、各個人の将来の生き方への意義ある動機付けと展望を持たせる。 校訓「誠実・協力・創造」のもと、国家・社会に貢献し、あわせて人としての心豊かさとかくましさを持つ広い視野の人間を育成する。					
昨年度の成果と課題	平成20年度重点目標	具体的目標				
教科指導、進路指導、生徒指導の充実と改善に取り組み、進路実績の向上、生徒の授業中の学習態度や出席状態、通学中の態度などに一定の成果が見られた。 生徒の希望進路の実現のため、生活態度を向上させ、学習意欲を一層喚起し目的意識を持たせ真剣に学習に取り組ませねばならない。	教育方針スローガン「君の働きを求められるその日のために」に沿い、 1 生徒の進路に対する目的意識をより明確にさせ、進路実現を図る。 2 教育環境を整え、教育資源の活用努める。 3 進路・修学保障の観点から、出席改善指導及び風紀改善指導を継続して行い、教育相談機能と連携し、生徒とは勿論、保護者との意思疎通を図って、信頼される指導を確立する。	1 HR指導、教科指導で生徒に進路実現の動機付けを行なう。 2 日常の授業・課外補習・対外模擬試験等で学力の到達状況や伸長度を測り、学習指導・進路指導に反映させる。 3 大学等の体験講座やオープンキャンパス、各種の検定やコンクールなど、学校外でのチャレンジ・体験に積極的に取り組ませる。 4 生徒の活動を高め保障する授業を行う。 5 教師自身の目標設定・管理・評価を反映させ、授業に対する自己評価と生徒による授業評価を生かして、授業改善に臨む。 6 授業の開始と終了にけじめを持たせ、教室の美化環境と雰囲気を整え、工夫をした方法・手段を積極的に取り入れる。 7 進路・修学保障の観点から、出席改善指導及び風紀改善指導を継続して行い、教育相談機能と連携し、生徒および保護者との意思疎通を図って、信頼される指導を確立する。				
評価項目	具体的目標	現状値	目標値	具体的方策	自己評価 9月 3月 3月	平成21年度への課題及び改善点
進路保障	HR指導、教科指導で生徒に進路実現の動機付けを行なう。	2	4	生徒の学習意欲を喚起するために、学習目標や単元到達目標を示した授業を展開する。 学年部と進路指導部が連携して、各学期、時期に応じた計画的な進路ガイダンスを行う。	3 4 3 3 3	学習目標や単元到達目標を示すためにシラバスの活用や単元シラバスの作成を検討する。 進路ガイダンスのための進路HRの時間確保と展開のし方や活用資料の整備を行う。
	日常の授業・課外補習・対外模擬試験等で学力の到達状況や伸長度を測り、学習指導・進路指導に反映させる。	2	4	学年部及び各教科で、定期考査や模擬試験の対策や結果分析を行い、以後の学習指導や進路指導に活かせる指導方法を明確にし協同して取り組む。	3 4 4	模試の結果分析を、単に点数や偏差値、分布状況にとどめず、設問ごとに正答率等を分析し、授業での指導内容改善につながる分析まで行う必要がある。
	大学等の体験講座やオープンキャンパス、各種の検定やコンクールなど、学校外でのチャレンジ・体験に積極的に取り組ませる。	3	5	HRで日程等の情報提供を随時行って、上級学校の体験入学やオープンキャンパス参加を促す。 英語検定や外部実施の模擬試験の受験督促のため、受験案内や詳細情報を各部で連携して提供する。	4 4 4 4 4	体験入学やオープンキャンパスへの個人参加はもちろん、学年・学校参加を検討する。 センターリアルタイム模試など、現在以上の模試全員参加を検討し実現させる。
授業改善	生徒の活動を高め保障する授業を行う。	3	4	生徒の発表、討論、実験・実技・実習等の目に見える活動及び、思考・推論・想像、傾聴、感動等の目に見えない活動を重視する授業方法や授業内容を工夫する。	3 4 4	授業改善のための年間複数回の授業見学を継続して行い、他者の授業見学から生徒の活動を高める授業方法等を学び取り、生徒の活動を高める授業を改善構築する。
	教師自身の目標設定・管理・評価を反映させ、授業に対する自己評価と生徒による授業評価を生かして、授業改善に臨む。	3	4	自己評価の当初面談や最終面談を通して、各教師の授業改善への取り組みの具体策を明らかにする。 年間3回、同教科や他教科の相互授業見学を行い、報告書を提出して年度末反省を行う。	3 4 4 3 4	個々の教師が取り組む授業改善から、教科全体が取り組む授業改善に発展させていく。 個々自由に任された授業見学の他、授業見学週間の設定や研究授業の実施を検討する。
	授業の開始と終了にけじめを持たせ、教室の美化環境と雰囲気を整え、工夫をした方法・手段を積極的に取り入れる。	3	4	チャイムと同時に授業を開始することを教師・生徒全員で申し合わせて実行する。 教室清掃や私物の整理整頓、机の並びの乱れを直す指導と点検を学級担任・教科担任が常時行う。	3 3 3 3 3	状態が改善されてきているが、より一層指導強化を徹底して行い現在以上の状態を目指す。 整理整頓がなされた落ち着いた教室環境で学ばせ、進路実現目指して学習成果を上げる。
生徒指導	進路・修学保障の観点から、出席改善指導及び風紀改善指導を継続して行い、教育相談機能と連携し、生徒および保護者との意思疎通を図って、信頼される指導を確立する。	3	4	出席や服装等の整えの大切さを、HRや集会、全体集合時等の機会に継続して論ずる。 生徒指導や教育相談の委員会や研修会を充実させ、情報交換や実態把握を行って問題に対処する。	3 4 4 4 4	全体的に服装が正されてきているが、細部ではまだ不十分な点が見受けられる。 各種委員会や研修会を定期的の実施し、生徒に関する情報提供や共有を一層推進する。



平成21年度 学校評価報告書1 ( 計画段階 実施段階 )

学校名		福岡市立福岡西陵高等学校		学校経営方針・学校教育方針		今年度の重点目標		評価(総合)	
学校長	ふりがな	しみず	あきお	教育方針スローガン「君の働きを求められるその目的のために」 (1) 学習指導、生徒指導、進路指導を一体的に推進し、自己実現と社会貢献の 一環を目指す進路保障に努める。 (2) 礼節をわきまえ、誠実で責任感と協調性をもち、愛と勤労を尊ぶ精神を面 養する。 (3) 個性を生かし、自主的自発的な精神で生活を営む態度を養う。 (4) 人としての生き方なり方を追究させることを通じて人権尊重の意識を高 め、差別をなくす力を育てる。 (5) コミュニケーション能力を高め、多種多様な情報を適切に収集・処理・発 信できる能力を育てるとともに、人として挨拶を基本に相互理解を進める ように指導する。		今年度の重点目標 (1) 生徒の進路に対する目的意識をより明確にさせ、進路実現を図る。 ①進路意識を育てる。②自分を知ること促す。③広い視野から進路を決定させる。 (2) 教育環境を整え、教育資源の活用を促す。 ①生徒の活動を高め保障する授業を行う。 ②生徒の学習環境を整える。 (3) システムとしての教育機能を高める。 ①出席改善指導及び風紀改善指導を継続して行い、信頼される指導を確立する。 ②体系化された組織により、特別支援教育の機能を高める。 ③国際理解教育の体系化と組織化を図り、本校の特色としてみさわしい姿に育てる。		評価(総合) 学校自己評価 学校関係者評価	
	氏名	清水	昭男						
校長本校在任年数		2年							
学校関係者 評価委員会 委員長	ふりがな	おち	のぶあき						
	氏名	越智	信彰						

昨年度の成果と課題 教科指導、進路指導、生徒指導の充実と改善に取り組み、進路実績の向上、生徒の授業中の学習態度や出席状況、通学中の態度、生活規律の向上などに一定の成果が見られた。生徒の希望進路の実現のため、さらに生活規律を向上させ、学習意欲を一層喚起し、目的意識をもって学習に取り組ませる必要がある。

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	基礎学力の定着と上級学校へ進学できる学力の伸長をめざす。	年3回の校内授業研究(教員相互の授業参観)を行い、指導力の向上を図り、授業改善につなぐ。 習熟度別学級編成や習熟度別授業の効果的な運用について研究する。(他校の状況の調査研究)。					
生徒指導	学習環境を整え、学校としての学ぶ雰囲気さらにも高めるとともに、家庭学習の定着をめざす。	教室の清掃や整理整頓、チャイムと同時の授業開始など授業規律の確立を全職員で徹底する。 家庭学習の実態を把握し、担任と教科担当が連携して、自学自習の習慣の確立に向けた指導を行う。					
進路指導	生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上をめざす	全職員で出席改善指導及び風紀改善指導を継続し、保護者と連携し、指導対象生徒を各5名以下にする。 ホームルーム、学年集会、始業式、終業式等において、規律や礼儀を重んじる指導を徹底する。					
特別支援教育	部活動や生徒会活動など、生徒の主体的な活動を推進する。	学校行事の企画運営や挨拶運動、環境美化活動等を通して、生徒会活動の活性化を図る。 部活動の加入率を高め、部活動生徒をクラスや学年の模範生徒、リーダーとして育てる。					
開かれた学校づくり	授業、課外補習、対外模擬試験等通して生徒の学力の到達状況や伸長度を測り、学習指導・進路指導に生かす。	学年部及び各教科で、定期考査や模擬試験の対策や結果分析を詳細に行い、次の指導に生かす。 生徒一人ひとりの学力の到達状況を把握し、面談等を通して個別指導を充実させる。					
特別支援教育	生徒の進路に対する目的意識をより明確にさせ、進路実現を図る。	大学での体験講座の実施やオープンキャンパス等への積極的な参加を促し、生徒の進路意識を高める。 英検検定や外部実施の模擬試験の受験意欲のため、受験案内や詳細情報を各部署で連携して提供する。					
特別支援教育	特別支援教育に関する共通理解と推進体制の確立を図る。	校内研修の実施や校外研修への積極的な参加により理解を深めると共に教職員の意識を高める。 保健主事や特別支援教育コーディネーターを中心に教育相談機能と連携し、推進体制を確立する。					
特別支援教育	障がいのある生徒や課題を抱えた生徒に対する理解と支援の充実を図る。	障がいのある生徒の支援を通して、障がいに対する理解を深め、支援会議で支援の改善を図る。 生徒の変化の早期発見に努め、気になる生徒の情報を共有し、不登校、中途退学者を減らす。					
開かれた学校づくり	保護者・地域との連携を深める。	保護者会、進路説明会、体育祭、学校公開週間等の学校行事への保護者や市民の参加者を増やす。 同窓会やPTAとの連携、学級だよりの発行や三者面談等により保護者との連携を深める。					
開かれた学校づくり	中学生等に向けた積極的な広報活動を行い、本校の教育活動をPRをする。	中学校訪問、体験入学、オープンスタグール、進路相談事業等において積極的に広報活動を行う。 Webページの内容の充実を図るとともに、月1回以上の更新をめざす。					

※ 学校自己評価は、5段階評価(S…目標を大幅に上回る達成度、A…目標を上回る達成度、B…目標どおりの達成度、C…目標を下回る達成度、D…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。  
※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(S~D)で評価すること。